

すずた が わ
鈴田川水系河川整備基本方針

令和7年9月

長崎県

すずた がわ
鈴田川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 鈴田川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の創出と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に 関する事項	5

＜参考図＞

鈴田川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 鈴田川流域の概要

鈴田川は長崎県大村市に位置し、その源を多良山系（標高 400m）に発し、鈴田峠おおむらとうから小川内川、稻河内川、針尾川等の支流を集めながら流下し、山間部から平野部を流下しながら、大村市市街部を貫流して大村湾に注ぐ、流域面積約 18.0km²、幹川流路延長約 5.8km の二級河川です。

流域の気候は、対馬暖流の影響で温暖であり、年平均気温は約 17℃です。年降水量は約 1,900mm で、梅雨や台風の影響を受けるため 6 月から 9 月にかけて雨量が多くなっています。

流域内の地形は、上流域は小起伏山地や火山山麓地、下流域は扇状地性低地、河口部は三角州性低地で形成されています。また、左岸の支川流域の大部分は大起伏丘陵地で形成されています。

流域内の地質は、鈴田川および支川の小川内川や針尾川の上流の一部は輝石安山岩であり、中流域から扇状地性低地にかけては凝灰角礫岩、下流域の扇状地性低地では礫・砂・粘土で形成されています。また、左岸の支川流域の大部分は玄武岩で形成されています。

流域の人口は約 4,700 人であり、その多くは鈴田川下流域に位置する大村市の市街地に集中しています。

流域が位置する大村市は、正暦 5 年（994 年）、藤原直澄ふじわらなおすみが久原城くはらじょうに本拠をかまえ大村氏を名乗り、以来 14 代 500 年近く久原城を居城とし隆盛しました。また、明治・大正・昭和にかけて軍都として栄え、近年では昭和 50 年に世界で初めて海上空港として開港した長崎空港が完成し、平成 2 年には長崎自動車道、平成 30 年には木場スマートインターチェンジが開通、さらに令和 4 年 9 月に西九州新幹線が開業し、新大村駅の整備によって、交通アクセスの利便性を活かしたまちづくりが進んでいます。

鈴田川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下のとおりです。

① 治水の概要

鈴田川における主な洪水としては、昭和 32 年 7 月豪雨により、多数の被害が発生しました。この被害を受けて、災害復旧助成事業や局部改良工事により治水対策を行いましたが、令和 2 年 7 月豪雨では再び浸水被害が発生しており、治水安全度は十分ではありません。近年では、短時間集中豪雨等による水害のリスクが増大しており、洪水氾濫の危険性は高い状況にあります。

②利水の概要

鈴田川における水利用は、主にかんがい用水の水源として利用されていますが、近年、これらの水利用に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

③自然環境および河川利用状況

鈴田川は上流部で山地が多くを占め、小川内川や針尾川が合流する中流から下流域において住宅地や耕地が混在するという特徴を持っています。

鈴田川上流域ではスダジイ、タブノキ等の自然林とスギ・ヒノキの人工林が広範囲に分布しています。

鈴田川の中流～下流域の河川沿いは、主に住宅地や耕地として利用されており、水田雑草群落が分布し、河川沿いにはメヒシバ-エノコログサ群落や、ツルヨシ、ヨシ群落等の川辺植生が分布しています。

鈴田川の上流域は山間の樹林地で、水辺や水域には渓流性のタカハヤ等の魚類や、トノサマガエル(準絶滅危惧：環境省レッドリスト(以下「環」という。)、絶滅危惧ⅠA類：長崎県レッドリスト(以下「長」という。))等の両生類が確認されており、上流域のため池では、ヘラブナ等止水性の魚類やマルタニシ(絶滅危惧Ⅱ類：環・長)といった底生動物が確認されています。

鈴田川の中流域から下流域にかけて、両岸に砂州が形成され、河岸植生が発達する中、瀬渦が連続し、一定間隔で堰が設置されています。ここでは、キジ、コチドリ(絶滅危惧Ⅱ類：長)、カワセミ等の鳥類、コイやフナ、オイカワ、カワムツ等の魚類、モノアラガイ(準絶滅危惧：環、絶滅危惧Ⅱ類：長)やクルマヒラマキガイ(絶滅危惧Ⅱ類：環・長)等の底生動物が確認されています。また、鈴田小学校及び鈴田地区グラウンド一帯において河川公園が整備され、地域の人々の憩いの場となっています。

潮止堰より下流は感潮域となっており、河口干潟が分布し、ホシハジロやマガモ、コサギ等の水鳥や、ミサゴ(準絶滅危惧：環・長)等の水辺の猛禽類、マサゴハゼ(絶滅危惧Ⅱ類：環)等の汽水魚、シロウオ(絶滅危惧Ⅱ類：環、準絶滅危惧：長)、ニホンウナギ(絶滅危惧ⅠB類：環)、アユ等の回遊魚、ウミニナ(準絶滅危惧：環・長)等の底生動物が生息しており、ハマボウ等の塩生植物も確認されています。

鈴田川の支川である針尾川、稻河内川、小川内川や、周辺の水路は、鈴田川中下流と同様の魚類やミナミメダカ(絶滅危惧Ⅱ類：環、準絶滅危惧：長)等の魚類、ニホンアカガエル(絶滅危惧Ⅱ類：長)等の両生類、ヒラマキガイモドキ(準絶滅危惧：環・長)等の底生動物が確認されています。

鈴田川では、^{すずたばし}鈴田橋下流が環境基準点に設定され、水質に係る公共用水域のA類型(環境基準値はBOD：2mg/L以下)に指定されています。近年のBOD75%値

は経年的に環境基準値以下で推移しています。

（2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

鈴田川の整備にあたっては、安全・安心で快適な地域づくりをめざし、大村市の社会・経済の発展に係わる諸計画（第5次大村市総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川整備・保全に係わる取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

鈴田川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、計画規模を上回る規模の洪水や整備途上段階における施設能力以上の洪水に対し、河道掘削や堤防整備等のハード対策と水害リスク情報の共有や防災意識の啓発等のソフト対策を一体的に推進します。さらに流域全体で連携した雨水貯留浸透機能による流出抑制対策や関係機関と連携した流域住民の適切な防災行動への支援、森林管理者等と連携した土砂・流木対策等、流域全体のあらゆる関係者が協働し水災害を軽減させる「流域治水」の普及・啓発に取り組みます。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の創出と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や大村市等関連する他行政機関との綿密な連携のもとに合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

また、河川環境の創出と保全に関しては、現在の生物の生息場等の良好な河川環境を存続させるため、多様な生物の生息・生育環境に配慮した河川整備に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

基本高水は、年超過確率 1/50 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点似田橋（河口より約 2.25 km 地点）において $230\text{m}^3/\text{s}$ と設定し、これを河道へ配分します。なお、ピーク流量は、気候変動により予測される将来の降雨量の増加を考慮したうえで算定します。

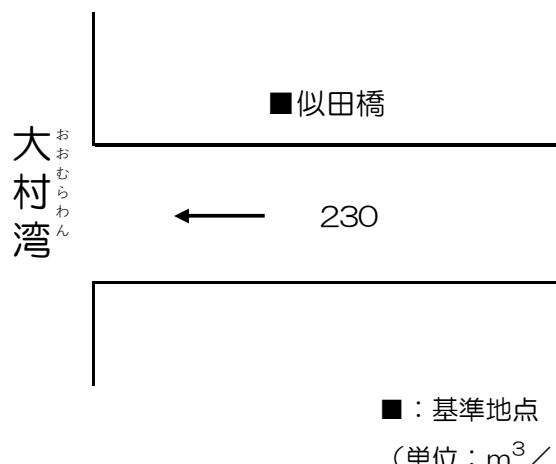
また、気候変動の状況、またその予測や降雨-流出特性の評価に係る技術・知見の蓄積、流域内の貯留・浸透機能及び沿川の遊水機能の変化等に伴う流域からの流出特性や河道の流下特性、並びに背後地の状況の変化など、基本高水のピーク流量の算出に係る前提条件が著しく変化することが明らかとなった場合には、必要に応じこれを見直すこととします。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位: m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量	洪水調節施設等 による調節流量	河道への 配分流量
鈴田川	似田橋	230	—	230

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

鈴田川における計画高水流量は、基準地点似田橋において $230\text{m}^3/\text{s}$ とします。



鈴田川水系計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口から の距離(km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
鈴田川	似田橋	2.25	+12.33	25	基準地点

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

鈴田川の河川水は、主に流域内のかんがい用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後、必要に応じて調査検討を行います。

参考図 鈴田川水系流域概要図

